

第10回 国立市文化芸術推進会議 議事要旨

1. 日 時 平成31年2月4日（月） 19:00～21:00
2. 場 所 国立市役所3階教育委員室
3. 出席者 (委員)
池田委員、足羽委員、高橋委員、綿引委員、福間委員、今村委員、渡辺委員、久保委員、沢辺委員、湯本委員
(事務局)
伊形生涯学習課長、青木社会教育・文化財担当主査
4. 傍聴者 0名
5. 議 事 (1) 開 会
(2) 国立市文化芸術推進基本計画（案）について
(3) 閉 会
6. 配布資料 資料10-1 国立市文化芸術推進基本計画（案）について
資料10-2 施策推進のイメージ
7. 内 容

■足羽委員より遅参する旨報告があった。

(1) 開会

■事務局より本日の配布資料の確認及び本日の進め方について説明を行った。

(2) 国立市文化芸術推進基本計画（案）について

■事務局より、資料10-1及び10-2に基づき説明を行った。

【事務局】

◇施策・事業案については、庁内検討委員会や第9回推進会議での委員からの意見を元に施策・事業案に追記を行い、施策の体系、施策立案の視点、施策の推進イメージを追加した。

◇施策の表中にイメージ図及び対応する基本方針を追加した。

◇推進体制については、表現をリライトしたうえで、計画の推進サイクルを追加した。

■説明後、委員より以下のとおり質疑・意見等があった。

【今村委員】

◇計画案にアートカウンシル、アーツカウンシルが混在しているようだが、一般的にはアーツカウンシルではないかと思うので、これを統一すべきである。

◇前回の会議で委員各位ともアーティスト・イン・レジデンスのことで全然イメージが違うという話があったため、私なりに少し整理を試みた。私が考えていることは、ある著名なアーティストを招聘するというイメージではなく、どちらかというとヤングアーティストサポート事業のようなニュアンスであったということに思い当たった。

◇2月17日に国立音大の先端アートとも呼べる創作系のコンサート「くにたちデビューコンサート」が開催される。これまでは、例えばハープのコンサートやオペラ関係のコンサートといったように、国立音大のイメージであるクラシックのコンサートを開催してきたが、ここで

現代音楽を取り上げていただくことになった。先端アートでは、視覚芸術、音響芸術の垣根が昨今なくなりつつある、新しい芸術がどんどん生まれてきている。私たちの世代よりもずっと若い人になると、これからはデジタルネイティブの世代とって、アートそのものが変わっていく可能性があるため、そういうものの支援をできたらと考えている。

◇国立市ではこのような支援形態があるため、これ踏まえ「ヤングアーティストサポートプログラム」といったことに、沢辺委員がおっしゃっていたような空き家の活用等と結びつけていければ良いと考えたところである。おそらく、池田議長や福間委員がおっしゃっていたアーティスト・イン・レジデンスの考え方とはちょっと離れているように思ったため、その点を述べさせていただく。

◇主に合致する基本方針というのをに入れていただいたのは良いと思う。大抵のこういうプランは、横断的なものであって、1つのところに紐づけるものではないと思うため、さまざまな事業を他部署と連携していったりするときには、やはり基本方針は1つだけではないということを確認に示したのは評価できる。

【池田議長】

◇アートカウンシルの統一について事務局の意見はあるか。

【事務局】

◇事務局としては「アーツ」で統一させていただきたいと考える。

【池田議長】

◇委員より意見はあるか。

【福間委員】

◇日本語としては「アーツ」より「アート」のほうが意味がわかりやすい気がする。

【池田議長】

◇イギリスなどでは「アーツ」カウンシルになっている。

【福間委員】

◇他自治体では「アーツ」の方が多いのか。

【事務局】

◇「アーツ」のほうが多かったように記憶している。

【今村委員】

◇東京都でも「アーツ」カウンシルになっている。

【足羽副議長】

◇一般的に使われているほうで良いのではないか。

【池田議長】

◇アーツで統一させていただく。

【池田議長】

◇前回からの変更点として、施策の推進イメージやどの時期にどういったことを実施していくかといった具体的なイメージが出てきたように思うが、これについて意見をいただきたい。

【足羽委員】

◇資料10-2で推進の3つの流れで、既存事業の推進、ブラッシュアップと新規事業の検討、推進機関の調査ということで、非常にわかりやすく整理していただいたので、これまでの議論

は落ちつくところに落ちついたような感がしている。しっかり整理していただいて、非常にすっきりした感じになっている印象を受ける。

◇初期、中期、後期を計画期間の10年で分け、3年くらいずつで検討していくようになるのか。

◇また、資料10-2を見ながら計画案を読むと非常にわかりやすくなっているが、本図は計画案の中に入ってくるのか。

【事務局】

◇資料10-2の図を入れたほうがよりほかの方々が見たときに、ぱっと見たときにこういうイメージだとわかりやすいということであれば、入れたほうがよろしいかと思う。今後、議会や市民への報告も予定しているため、市としてはこのようなイメージで計画推進を図っていくという姿勢を1つの例として出していきたいかなと思う。ただし、あくまでイメージ図なので、具体的なものをどこまで入れ込むかというのは検討が必要である。

【足羽委員】

◇現在の計画案にもグラフや図が載っていて、より具体的でいいと思うが、この図が入ると全より説得力を増すことになると思う。

◇図中に具体例として、いくつかの事業が掲載されているため、今後の取組とすり合わせて掲載していただけると良い。

【池田議長】

◇現在、ヨーロッパなどで制度化されている「1% FOR Art」という、公共施設を建設する際に1%予算をアートの部分を盛り上げるために使用するといった制度を計画の推進イメージの中に入れ込むことはできないか。

【事務局】

◇計画の中に落とし込むような形で調整させていただきたい。

【足羽副議長】

◇市民ニーズの把握というのは、ここでも何度も議論に出てきており、とてもいい方向性だと思うが、この場合、「市民」というように一般的に出す場合とゼネラルで出てくる場合、あるいは商店街の方々がどういった文化芸術ニーズを感じられているか、学校の先生方がどう思われているか、あるいは高齢者とか障害者がどう思っているのか、国立に来る方のような市民の声だけでなく外部の人たちがどういうことを国立に望んでいるかとか、そういったクラスターで分けて見ていくのがあると良いと思ったところである。

◇国立市の不動産屋さんと話す機会があり、どうしたら国立の不動産が売れるのかという話から、どうしたら国立が住みやすい、どうしたら若い人たち、子供を連れた人たちが住んでくれるのかという話になって、さまざまご提案をいただき、そのような方々の視点は私たちのものとは異なる視点だなと思ったこともあり、目的は異なるにせよ、お子さんたちや、お子さんたちを抱えている人たち、カップルが住んでくれるようなまちにするためにはどうしたらいいかという市民目線以外のところからも聞くことも良いと思ったところである。

【高橋委員】

◇前回出された資料に比べれば、皆さんがおっしゃったように、イメージ図があって、かつ第4章の冒頭に推進の考え方という部分が入ったことで、かなりわかりやすくなっているように

感じた。

【福間委員】

◇施策立案の視点の2つについて「市民」については良いと思うが、「にぎわい」については若干違和感を覚える。確かに結果的ににぎわえばいいとは思いますが、文化芸術を推進するということのにぎわいをもたらすことが狙いなのかと言われると疑問が残る。にぎわいはもちろん結果としてそうなるから、イメージで置いておくという手もあるのかもしれないが、結局、大きな考え方をすると、推進機関をこれから検討し、推進していくにあたり、実際に実質として具体的に何ができるかという考え方、具体性に対する配慮というか、それがあってからにぎわいだと思う。もちろんにぎわいがあふれるまちを目指して悪いわけなし、目指すのはいいと思うが、何か実質的なこと、本当に意味があることをやりますという感じが出るというかなと思った。

◇一つ一つのことをきちっと積み上げていくとか、そういうことが言われたほうがいいかなという気もしている。大体この会議で言われたようなことが落とし込まれてここに出ているといったって、実際は本当にどうなるのだろうかという気もするし、どこの自治体でも同じようなことを考えているわけで、国立市はこういうことはきちっとやっているぞ、やったぞといったようになりたいのであれば、その具体性みたいなものがここに盛り込まれているといい気がする。

【綿引委員】

◇立川では商業都市という性質上「にぎわい」という言葉をよく用いている。人を集めて、それが繁栄だという考え方が立川市にはすごく強くあって、だからこそ北口にいろんなことやりまじょうとやっているところも、計画の中に「にぎわい」という言葉が入っているからこそである。

◇そのまち、そのまちで芸術文化というものをどういうふう考えていくか、例えばすごくいろんなものがあふれているのであれば「継承」であると思うし、全くないのであれば「創造」かなとか、そういうキーワードがあるような気がする。まちの特性を鑑みて例えば新しいものをどんどん取り入れていくとするのか、それとも、既存のものを尊重していく特性とか、そういったあたりが、ぱっと出ると良い。もっと新しいもの取り込んでいく姿勢を大事にするのであれば、そこを強調してもいいのではないかと福間委員の意見を聞き思ったところである。

【今村委員】

◇「にぎわい」というのは、基本理念2の「特色ある文化芸術活動により、まちの魅力を高め、市民生活を活気あるものとし、にぎわいのあふれるまちとする」から来ているように思う。福間委員や綿引委員がおっしゃっているのは、どちらかというところ、まちの魅力を高める文化芸術活動によってというほうが、主軸のほうが結果的に、魅力が高まり、人が集まり、そこに結果としてにぎわいが生まれるというイメージなのではないか。この基本理念2の構成を、にぎわいを目標とするのではなくて結果論として読んでらっしゃるのかなと感じた。確かに、私は当初、にぎわいについてはあまり考えていなかったが、文化芸術活動というものが国立市という小さな市の魅力を高めているということのほうが、小粒だけときらりと光ると国立市のイメージに合う気がする。

【足羽副議長】

◇この4つの基本理念を読むと、市民のためという部分と、外部から人を呼び込みそれが結果

として国立市の活性化につながる部分の2つあると思っており、この分け方は良いと思う。

◇自主性という考え方となり、基本理念1に文化芸術にかかわるものの自主性と創造性という言葉があるが、例えば市民を自主性としたときに。この外部の視点を、例えばにぎわいではなく、創造性という言葉にして、その中の言葉が国立市の特定をさせた新たな芸術活動によりというよりも、生かした創造性あふれる文化芸術活動により内外の人たちがと入れたら、言葉はおさまるのかなと思いました。

◇幾つかあったご意見でもっと具体的なものを入れたいということであったが、これは視点という考え方であるので、具体的なことはここには書きづらいような気もしたところである。

◇より具体的なことは、施策や施策の説明、現在の取組、今後考えられる取組例の中で、これをもう少し充実して書いていただくのが良いと思う。

【福間委員】

◇具体的なことを述べるのでなく、具体化する力について書いていただきたい。現在の文章は、「にぎわいが溢れるまちを目指します。特に市外から多くの人を呼び込めるよう」は、ある意味で当然で、それを具体的にどうするかという、雰囲気だけでやらないで、きちっと具体的なことを積み重ねていくというような記述となるべきである。

◇特色をはっきりさせる、自主性を尊重するといったようになっていくのかもしれないが、にぎわいよりも、その前の土台を示すべきである。

【池田議長】

◇文化の種を大切にするというか、小さな基本的なものを大切にしながら、それを育てていく過程を見守るというか、そういうニュアンスだと思う。その中に当然にぎわいとか、そういう視点がなければ育っていかないことは必然である。

【渡辺委員】

◇私は日本舞踊をやっており、長唄などではお祭りなどの大変うれしいときになったという表現の歌の文句に「にぎわい」という言葉結構出てくる。都風流という長唄には、風情をにぎわいという言葉1つの中に盛り込んでいるため、この「にぎわい」という言葉が出てきたときに、随分日本の古典文化の中に使われている言葉が出てきたなという思いを受けとめたので、そんなに私は違和感なく、どちらかといったらいいなと思ったところである。

【池田議長】

◇事務局に伺うが、この施策立案の視点というのは推進会議のみを対象として設けられている言葉なのか。

【事務局】

◇本日お示した状態を計画案としていきたいと考えている。

【沢辺委員】

◇視点という角度なので、イメージとしては、ここに書いてある基本理念や基本方針があつて、これらをもとに具体的な事業を実施するとき、考えるときに、この視点の軸がクロスして交差するようなところの事業をやっていくということかなと思っている。

◇さきほど今村委員がおっしゃっていた獨創性のような国立らしい言葉はあってもいいと思った。市民主体であるという1つの軸と、当然にぎわいという、人に来てもらう、交流するという軸。そしてもう一つ、国立らしさもある視点となると、それこそ立川というのは大きな、既

存でやっているものをそこでもやってという、人をたくさん呼ぶというやり方も、あれぐらいの規模だとあると思うが、国立の場合はある種、でき上がっているものをやるというよりは、いかにここからユニークなものを、独自なものを出してくるかということが軸になると思うため、独創性や創造性といった視点がもう一つあっても良いと感じたところである。

【今村委員】

◇そもそも施策立案の視点を2つに絞った理由はあるのか。

【事務局】

◇2つに絞ったというよりは、今回の会議の中で一番多く出されていたキーワードを集約した結果2つになったところである。よって、もし3つにするということであれば、例えば既存の市民、にぎわいに加え「創造性」をもう一つ追加し、既存のにぎわいの記述を切り分け、少しずつボリュームを足してという形で集約するようになるかと思う。

【福間委員】

◇2のままでも、にぎわいにポイントを置かず、「交流の促進」といったように、交流を促進するために文化芸術の創造性を尊重してやるとか、既成のものにとらわれないとか、いろいろつながっていく視点でいいのではないか。にぎわいというのを全面に出してしまうと、ある意味で人が大勢来ればいいという考え方に行ってもおかしくないと思う。そうではない中身との触れ合い、つながりが必要だとすれば、前回の意見で世代間の交流を充実させていくというのもあったため、「出会い」ということでもいいかもしれない。いろんな出会いの機会を積極的につくっていくとか、そういうことだと「にぎわい」よりはいいかなという気がする。

【久保委員】

◇福間委員のご意見を伺い、私も同感である。子供たちにも文化芸術の大切さというところを学校で考えたり、活動したりする。にぎわいという言葉の受けるニュアンスという次元ですけれども、盛り上がって、それで終わりといった受けとめられ方をすることが多いなと感じた。◇逆に、子供たちによく伝えるのは、福間委員が「つながり」という言葉をおっしゃっていたが、まさによくつながることということを行っている。文化芸術を通して友達とつながったり、地域の方や、他から来た人と交流したり、伝え合ったりすることが大事だということをよく音楽をやる学校では話があるが、そういう視点に立つような視点、受けとめられ方というか表現が混ぜることができると、より本来の目的に沿うのではないかと感じ、その上で、結果的ににぎわいなのだろうと思ったところである。

【足羽副議長】

◇あまりここだけにこだわると、時間がなくなってしまうので、沢辺委員のおっしゃったような3つに増やすか、あるいは、現行の2をリライトするかという形で次回集約すれば良い。

【池田議長】

◇ほかに意見はあるか。

【湯本委員】

◇推進のイメージはとてもよくわかりやすく、特に他施策事業をここに入れられたというのがすごく良いと思った。これは、芸術文化は教育委員会に限ったことではなくて、市が行ういろんな施策の中にこの芸術文化的な要素を取り入れていくという意味にとってよいか。

【事務局】

◇そのとおりである。

◇例えば現在、旧駅舎を再築しているが、あれもただ再現するということだけではなく、そういった要素も加味して展示をするとか、中の造作を工夫する、催しをするというのが当然入っていくべきだと思う。例えば部屋を1つつくるのであっても、担当が教育委員会ではなく建築担当だったとしても、当然、芸術文化も、福祉的な要素も全部加味してこういうものをつくる、そういった施策そのもの全てが芸術文化ということにいつも考えを置いた事業をするべきじゃないかと私は考えている。

◇そうすると、32ページの②のところの書き方は少し弱いかなという感じがする。もう少し今言ったようないろんな施策全てが芸術文化を頭に入れてやるということを出した表現にしてほしい。

【高橋委員】

◇第4章の理念と施策の部分に関して、非常によくできているが、全体としてどんな事業があるのかが見えない、というかばらばらになっているため、29ページに課題一覧表をつくってもらっているが、これと同様な一覧表があると、どんな事業があるかが一覧ですぐわかるため作成ができれば良い。

◇それぞれの施策の中で、今後考えられる取組例という部分があるが、ある意味、ここがこの推進会議で議論してきた内容でもあり、強く訴えるべきところかなと思う。そのわりには、星がついている特筆すべきものが少ない印象を受けた。すべて説明文を入れろということではないし、明らかに読めばわかるようなものはいいと思うが、もう少し特筆してもいいのかなという気がしている。

【足羽副議長】

◇高橋委員がおっしゃったことに賛成で、29ページの課題一覧表を元に、課題がある、だからこそ4章をやっていかなくてはならないという結びつけで整理した記述としてくださったら、4章のインパクトがさらに出てくると思う。

◇今後考えられる取組例については、「例」とってしまっていないのではないか。今後も考えられると言っているので、実現性の大小はともかく、いろいろな案が出てきて、ここで議論してきたものも活かされるかなと思う。やれるかわからないが、こんな案もたくさん出ているというのを示していきたいし、私たちの委員会からこの計画が離れても、読む方々がより具体的なイメージがわくのではないかなと思う。

【池田議長】

◇市民の方も、こういうことなら考えられるというきっかけにはなると思うし、それについて勉強していく、研究するという人も出てくると思う。

◇事務局に伺うが、51ページの本田家住宅再築について、これはこういった名称で取り組んでいくのか。

【事務局】

◇事業名称では「本田家住宅再築事業」という形にしているが、〇〇事業で統一させてしまうと、わかりづらいところもあって、あえて開いている部分ある。

【福岡委員】

◇43ページの「文化や芸術を通じた世代間交流事業の推進」について、ずばり「出会い」と

という言葉が欲しい。子供、高齢者、にぎわいをコンセプトとした交流施設云々ではなく、子供や高齢者や様々な年齢層が会おう場所をつくるとはっきり言ったほうがよくて、矢川プラスの例に特化しないで、一般論としてとにかく子供から高齢者までが会おう場所を用意する、積極的に持っていくと言ったほうが良いと思う。

【池田議長】

◇今後、空き家などの活用も含めて可能性はあるので、そこら辺まで包含したような表現のほうが良いかもしれない。

【事務局】

◇どの辺に落とし込むイメージが良いか。

◇説明のところに、福間委員のニュアンスをきちんと盛り込んでという形にするといった形で良いか。

【福間委員】

◇世代間交流事業といえば、今私が述べたことが当たり前なのかもしれないし、今のところ考えられる取組例は矢川プラスだけであるが、もっと具体的に、施策の説明のところで会おう場をつくっていく、会おう場を用意していくという取組をいろいろな角度からやっていきましょうということを1つここで言っておいた方が良いと思う。

【足羽副議長】

◇42ページの基本理念3のイメージ部分の中に福間委員がおっしゃったような、さまざまな主体との連携、協働した取り組みにより、文化と芸術を通じ、地域や世代間の出会いや交流を深めと、「出会い」としっかり入れればよいのではないか。

◇その後で、ソーシャルインクルージョンというのが最初から片仮名で書く必要はないかなとも思うが、もう少しわかりやすい、例えば一緒にする力のような平易な言葉にして、そこに世代間が出会うということを入れたうえで、今後考えられる取組例入っていたら、なおわかりやすいのではないか。

【湯本委員】

◇足羽委員がおっしゃった、片仮名語というか新しい言葉が消化できなく困っている。脚注ではなく、日本語で表せるものはできるだけ日本語で表していただいたほうが良いのではないか。

【池田議長】

◇文化芸術が持つ人々を結びつける力といったようにしてはどうか。

【事務局】

◇「ソーシャルインクルージョン」については、市が推し進めている政策の一環であるため、社会的包摂という言葉の英訳ということもありこのまま使わせていただきたいと思う

◇ただ、湯本委員にお話しいただいたように、横文字が多いのも事実であるため、直せるところは直していく。一方、逆に日本語に直すとまたわかりづらかったり、ニュアンスが伝わりにくかったりするものもあるかと思うので、その辺は検討させていただきたい。

【足羽副議長】

◇条例の前文もどこかに入れ込めないか。

【事務局】

◇前文すべてを入れ込むという理解で良いか。

【足羽委員】

◇条例の検討の際は、基本理念、基本方針を一生懸命議論してきたが、前文も大事だということで、外す、外さないも含めて活発に議論し、最終的には入れるということで入れ込んだ。あの前文は、皆さんの知恵が集まった非常に薰り高い良い前文になっていると思うし、せっかくこういった基本計画というものが出来たのなら、どこでもいいので、こういう方針でやりますよというのが入ると全体の方針とつながっていくのではないかな。

【高橋委員】

◇12ページに基本理念としっかり4つ出ているので、その前に、やはり2章の最初のところに入れるのが良い。

【福間委員】

◇11ページのところに、前文で言われていることの大切さを確認しておけばいいのではないかな。〇〇という前文で始まる、文化芸術条例はと言ってしまってもよい。

【今村委員】

◇5章のPDCAサイクル図について、プランの最後の「各種調整等を実施する」と書いてあるが、実施するというのとは何かを具体的に行動を起こすという意味なので、何となくプランのところに実施すると言葉として用いられているのはちょっと不自然だなというのと同時に、反対にDO、実行のところの最後に展開を図ると書いてあるが、図るは計画することなので、そこがちょっと不自然だなと思ったため、その辺の言葉を調整していただきたい。

■事務局より修正点について確認を行った。

■事務局より計画の前段部分（第1章～第3章）について説明があった。

【事務局】

◇第1章は計画の概要、第2章は、国立市文化芸術条例の解説、第3章は国立市の文化芸術に関する現状と課題といった構成としている。

◇1章は、計画の背景ということで、近年の国や東京都の動向について記載をし、それを受けた上で、国立市としてなぜ今回この計画を策定するに至ったかという内容を記載している。

◇その後計画の位置づけとして、最上位計画である第5期基本構想第1次基本計画という計画を受けて策定する計画として位置づけている。また、他施策の計画との関連性についても触れ、本計画に基づき文化芸術の視点を提供していくこととしている。

◇計画期間については、原則8年とし、1期目のみ、総合基本計画第5期の基本構想との周期を調整する関係で10年程度という書き方にしている。計画は、進捗状況等に応じ、見直しをしていく。

◇2章は、計画の基本的な考え方を条例に基づいた形で策定した旨を記載している。基本理念に基づいた施策展開とすることや基本方針を横串とすること、市の責務として、他の施策を所管する課を以て庁内検討委員会を設置したこと等を明示したところである。

◇3章は、国立市の文化芸術に関する現状と課題について記載している。審議内容としては、皆様にご議論をいただいた部分ではないが、実際の議論の中で皆様から挙げていただいたさまざまな意見を拾い上げるような形と、他市の計画等を元に記載したところである。まず文化芸術環境、文化芸術団体、歴史・文化遺産、市民のニーズの把握ということで、それぞれ国立市の現状と課題を抽出し、一覧表としてお示ししている。

◇そのうえで、これらを踏まえ、4章で施策を展開していくという構成としている。

■説明後、委員より以下のとおり質疑・意見等があった。

【足羽副議長】

◇3章については、もう少し検討したほうがよかったかもしれない。我々はこれまで様々な部分で課題提起を行い、この中でディスカッションした内容に基づき、その課題への対応策を検討してきたため、もう少し4章に合うような3章の出し方もあるのではないかと思った。

◇例えば文化芸術環境については5つあるが、市の施設だけが書いてあるわけで、これだけで良いのかという気もする。仮に市の施設に限ったとしても、例えば久保委員がおっしゃっているような学校も入ってきてよいとも思う。

◇文化芸術団体についても、現状では3つだが、我々の議論では、あれもある、これもある、たくさん長年の活動をしてらっしゃるのがあって、それをもう少し技術的に統合できないかとか、たくさんばらばらにあるが季節でまとめられないかとか、いろいろディスカッションがあって、もう少したくさんあるというのがわかると良い気がした。

◇歴史・文化遺産については、自然遺産という概念は入ってこないのか。この会議でもまち並みがきれいといった景観も入っていたため、そういったものも全部ひっくるめて国立のよさという認識でも良いと思う。

◇谷保天満宮の記述ないが、谷保天満宮は文化財ではないのか。

【事務局】

◇谷保天満宮自体というより、民俗文化財としての獅子舞であったり、社叢であったりという部分部分の文化財指定はされているが、谷保天満宮そのものが文化財指定されているかと言われると難しいところである。

【足羽副議長】

◇今は獅子舞についてのみ記載されているが、谷保天満宮は獅子舞だけではない感じがしたため、もう少し加えていただきたい。

◇また、課題一覧表は工夫が必要と考える。例えば現在のニーズに応えると記述がある一方で、市民のニーズの把握と書いてあったりするため、もう少し整理して、4章が説得力を持つようにしてもらいたい。また、組織のことが課題としては挙げられていないが、アートカウンシルの設置がより説得力を持つように、芸術をより豊かに推進していくための組織づくりと組織の連携を図っていくということも課題の1つに入ってくるのではないかと感じた。

【高橋委員】

◇足羽委員の話を聞いていて感じたのは、どこに入れていいか悩ましいとは思いますが、国立音楽大学において触れておく必要があるのではないかと。ある意味、市とは関係ないといえば関係ないものでもあるが、国立市にとって国立音楽大学はかなり重要な要素かなと思うので、触れられたほうが良い気もする。

◇また、一橋大学についても言及されるべきではないか。

【今村委員】

◇国立音楽大学は、現在立川の玉川上水にあり、国立は幼稚園から高校までの組織が、旧大学があったところで残っている。大学関係者はたくさん国立市に住んでいるが、大学そのものが玉川上水にあるということで、国立市と提携はしているが密度については微妙なところがある

かもしれない。八王子あたりに行くとなるとたくさん大学があるが、立川には大学は国立音大しかない。私個人としては国立音大は国立のものだと思っているが、やはり行政としては微妙なところがあるのかもしれない。

◇国立市には大学としてはやはり一橋大学があって、東京女子体育大学があってというのが基本なのかなと思う。もちろん、国立音大はすごく大切な存在だし、私自身、国立に引っ越してきたときに、国立では音大と言うと国立音大のことなんだということを初めて知った。それまでは、音大というのは全般的な音楽大学を指す名称で私にとってはあったため、国立音大は市民の皆さんに非常に大事にさせていただいて、そこでいろんな音楽家が育っていつているなど、自分が教育者として関わったときに非常にうれしい思いだった。

◇何か触れていただけるとすれば、もちろん大変ありがたいことだが、いかんせん立川の大学なので、連携のあり方みたいな形で触れるのが良いかもしれない。私も大学では立川市と連携している事業がすごく多いが、国立市でもデビューコンサートをしていただいたり、大切にさせていただいているため、何か貢献できればなど常々思っているところである。立地の関係を抜きにしてどのようにうまくやっていけるのかというのは今後の検討課題かもしれない。

【渡辺委員】

◇今のお話に関連して、私は武蔵野女子学院に通っていたが、あそこは敷地面積も広いし伝統的なものがいっぱい秘めているし、隣には成蹊大学もあるが、西東京市の計画には記載がなかったため、このような行政計画には、私立の学校なんかは載らないという認識でいた。

【事務局】

◇環境という言葉を使っているため、今のようなご意見が出てくるのは当然であるが、実際には、市が持っている文化施設に限定して記載をしているのみである。よって課題としては、施設の老朽化やスペースの問題とかがあるいうところからここを出してきていますので、今の視点というのはまた違った視点です。歴史的にもそうですし、国立市のつながりというところでの話になりますので、環境と言われると、広く言えば確かにそういうとり方にもできますので、その辺は、今お話いただいたところで考えていきたい。

【高橋委員】

◇6ページの1-2の(1)の中に触ればいかなという気はする。(1) 国立市の歴史・特性という箇所があるため、ここをもう少し膨らませてそのような記述を追記できるのではないかな。

【足羽副議長】

◇付け加えて提案で、例えば今の18、19ページで、課題のところ、課題は今まで出てきたのは、多摩美、音大があるなかで、学生が市内に住んでいるにもかかわらず、それを国立市が使い切れてないというところもあるので、例えば国立市を取り囲む国立市周辺とか、国立市を囲む、文化芸術環境とどこか項目を置いて、そういうのを羅列するというのも手ではないか。または、国立内外の文化芸術環境という言い方をすれば、兼松講堂も、谷保天満宮のお宮も、国立高校の文化祭など、この会議で話題に出たのも入れていただき、それらがなかなか統合しない、散発的にあるため、では、どうしようという話になっていくし、この会議でもそういった議論がなされてきたように思う。

【湯本委員】

◇市内には多くの画廊があり、これはすごい芸術環境だと思し、市の施設だけでなく、それらを含めていかないといけないと思う。画廊のほかにも音楽練習スタジオやホールもあり、そこを音大の方が使っていると聞いている。公共施設、公以外も十分に支えていると意識したほうがいいのかと思う。

【足羽副議長】

◇その他の文化芸術団体と書いてあるため、具体的に名前を入れたりということではどうか。

【福間委員】

◇3章の3-4の市民ニーズの把握の扱い方に若干疑問を感じる。ここから課題を取り出して課題一覧表に入っているが、今ある調査から見えてきた課題という見え方と、3-1、2、3のところから抜き出している課題とは性質が違うような気がしている。今抽出された課題はたまたま今ある調査から見えてきたことを言っている一方で、3-1~3にかけての課題は、こういうテーマから考えたらこういう課題があるということになると思う。だから、もしも市民ニーズの把握というところから課題を抽出するとすれば、もっと多角的な調査を進めていくというぐらいの課題しか出てこないのではないかな。

◇その上で、今出されている課題の抽出もやや曖昧というか、例えば「市外」での文化・芸術活動鑑賞が課題と述べられているが、これがどういう課題だかよくわからない。市外での文化・芸術活動鑑賞が市内での鑑賞よりも圧倒的に多いということを行っていると思うが、それはどのような課題なのか、どういう問題があるのかははっきりしないので、ここから読んだことはちょっと微妙なのではないか。

◇それ以外でも、文化・芸術活動を鑑賞する市民の割合が減っているわけでもない見えるし、自分で芸術活動を過去1年間で行った人の数も低水準と言えることなのかどうなのかよくわからない。いずれにしても、課題の抽出の仕方が変である

◇歴史・文化遺産のほうでは、結局、歴史・文化遺産をもっと積極的に活用していくことが課題として抽出されているが、それは3-3のほうで既に捉えられている。3-4の扱い方を全体として小さくする等、考え直していただきたい。

【足羽副議長】

◇福間委員のおっしゃるとおり、项目的に並ぶこととちょっと違うかもしれない。

【池田議長】

◇本日の会議は10回目であり、次回は18日を候補日とさせていただいている。本日の議論を事務局において落とし込んだものを計画(案)とするか、18日にもう一度会議を開催するかを決定したい。個人的には、もう1回開催し、少しの部分でも疑問点を出した方が良く考える。

【福間委員】

◇開催して、議論の上決定する方向で良いと思う。

■事務局より次回の日程について説明を行った。

【事務局】

◇次回は2月18日月曜日の19時から市役所の会議室で行わせていただく。

【湯本委員】

◇この間、郷土館で行われた本田家に関する特別展示を拝見したが非常にレベルが高かった。

特に江戸時代の文化人との交流が非常によくわかって、非常に見応えのあるものだった。歴代のご当主の書が素晴らしかったため、あれこそ駅舎の中でも飾って皆さんに見ていただきたいと思ったほどである。

【福間委員】

◇推進会議はこれでもう終了となるのか。

【事務局】

◇今回の表に出ていく形としては、次回で集約をさせていただく予定である。

◇その後は、議会や教育委員会、市民の方からたくさん意見がまた寄せられますので、それを事務局で取りまとめ、意見の取扱いについてご議論いただく予定である。よって、18日を除くと、残り1回か2回で最終的な形まで持っていくことを想定している。開催時期は、4月から5月にかけてを予定している。